マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄5～ LATIN ROCK ～ by Willie NAGASAKI on Aug. 24, 2008

1. Incident at Neshabur / SANTANA / Abraxas
2. Evil Ways / SANTANA / 1st
   ~ Oye Como Va / SANTANA / Abraxas
3. Momotombo / MALO / Dos
4. El Nicoya / Abraxas
   ~ Future Primitive / Caravanserai
5. Para los Rumberos / SANTANA / III
6. Sapo's Montuno / Sapo / Sapo
7. La Fuente del Ritmo / SANTANA / Caravanserai
8. Tiempo de Recorder / Malo / Ascencion
9. Guajira / SANTANA / III
10. Nena / Voices of Latin Rock / Live in Phenix
11. Se A Cabo / SANTANA / Lotus

Video: Black Magic Woman ~ Gipsy Queen

Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄5～ LATIN ROCK ～ by Willie NAGASAKI on Aug. 24, 2008

1. Incident at Neshabur

アフロ・キューバン・リズムそしてブルース・ロックを見事に融合させたサンタナ・サウンド。その存在は当時から超越していた。ハイ・テンポのマンボ、ハチロク（ベンベ、アバクァ）などのリズム・フォームを中心とするサンタナのシンボリックな楽曲。当時、FBIが最も恐れた”過激派”ブラック・パンサー党員アルベルト・ヒアンキントとサンタナの共作。これぞサンタナ・ミュージックの真髄！！

2. Evil Ways

初のスマッシュ・ヒット曲。ティト・プエンテTPの愛弟子ウィリー・ボボが、極秘にプロデューサーのビル・グレアムに接触、大ブレイクに導いた。クールなボボのオリジナル・テイストを損なわず見事にアレンジ。ウッドストックへの出演もあってか、世界中のヒップな若者たちをアッという間に痺れさせた。

…ボボ、露払いじゃ…とTPはつぶやいた。「ネシャブール」～「トゥサン・ルーベルチュール祭典」の芸術性と、この楽曲の大衆性のバランス感覚。恐るべきサンタナ・バンドの潜在力。TP60年代の傑作を引っさげ、『アブラクサス』がヒットとなったのだ。

Oye Como Va

Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄5～ LATIN ROCK ～ by Willie NAGASAKI on Aug. 24, 2008

実弟ホルヘ・サンタナを中心に結成されたスーパー・バンド"マロ"。セカンド『ドス』からのナンバー。息をつかせぬアレンジのなか、ウェスト・コースト・ラテンのサラブレッド：レオ・ロザレスのティンバルそしてアルセリーノのダイナマイト・ヴォイスが炸裂する。サンタナの兄弟分が、ほとばしるエナジーを発散。堂々と兄カルロスに挑戦状を叩きつけた。

3. Momotombo

フロント・ラインにティンバーレス、コンガを配した恐るべき初期サンタナ。中心となったティンバーレス奏者チェピート・アレアスはTP、EP（エディ楽団のマニー・オケンド）ソン信奉者であったことはいうまでもない。彼らのエッセンスをどん欲なまでに吸収、スタイルを見事に確立させティンバーレスという楽器を世界に知らしめた。キューバ伝統のルンバ・ワワンコーを忠実に再現。エンディングに持ってきた。凄すぎる！

4. El Nicoya

ファースト～ロータスまで、ライヴ・パフォーマンスおよびレコードの目玉がラテン・パーカッション・アンサンブルにおけるパフォーマンスであった。ハイ・テンポのルンバ、マンボが展開される中、チェピートの雷鳴のようなティンバルが宇宙に響き渡った。恐るべし。

Future Primitive

Copyright: マンボラマTokyo

5. Para los Rumberos

『アブラクサス』の大ヒットもあってか、再びNYラテンのキングTPをリスペクト。TP＆モンゴのバトルをカラベーロ＆アレアスが再現。TPニュー・アレンジのホーン・セクションはニール・ショーンとカルロスがツイン・ギターで、この荘厳なナンバーを再構築。オリジナルはクラーベ3-2、大胆にも2-3クラーベで展開させている。マロの音楽監督だったルイス・ガスカtpの熱演も聴きモノ。

6. Sapo's Montuno

シスコのラテン・ロック創世期に活躍した色男リチャード・ビーンがマロを脱退し、結成したのがサポ。当時、ホーンズ入りラテン・ロック・バンドはマロ、アステカ、サポの三巴となったのだ。ビーンのスウィートなヴォーカルと、灼熱のホーン・セクションがNYラテンをしのぐ新しいモントゥーノを創造した。幸福を呼ぶ幻のサポ（ガマガエル）。

Copyright: マンボラマTokyo

7. La Fuente del Ritmo

現代ルネッサンスの中心となった70年代のニュー・ロック・ムーヴメント。そのマスターピースが『キャラヴァンサライ』だ。ジョージ・シアリング～カル・ジェイダー（w/ モンゴ）で活躍した鉄人アルマンド・ペラーサの加入により、サンタナ・サウンドは鋭さを増した。激動期のサンタナ流デスカルガ。強力なモントゥーノ（ワヘーオ）はパーカション奏者ミンゴ・ルイス。カチャーオ～キューバン・デスカルガを踏襲。フェイド・アウト寸前のアルマンドのボンゴ・ソロがサンタナの新しい世界を予言している。

8. Tiempo de Recordar

『ドス』『エヴォルーション』と完成度を増した中南米連合軍マロ。彼らのワーナー・レーベル最終作『アセンシオン』からの最もサルサ色が強いナンバー。NY～キューバというより、シスコ～メヒコ～中米の香りが漂う。ニカラグアの天才ベーシスト：パブロ・テレス作曲、シスコでしか生まれなかった、ウェスト・コースト・ラテンの名曲だ。

Copyright: マンボラマTokyo

9. Guajira

『アブラクサス』で確立したラテン・ロックを更に宇宙的に展開させたサードからのナンバー。マイナー調ワヒーラ・ソンをベースにしたサンタナ代表曲。チャチャチャ～ハチロク～マンボと展開されるリズム・アレンジは斬新。リード・ヴォーカル：プエルトリカン故リコ・レジェスが切々と歌う。

10. Nena

チカーノ・ファーマーの代表者、故セサル・チャベスをトリビュートしたスーパー・ライヴ盤。ベイ・エリア伝説のギタリスト：アベル・サンチェスの呼びかけで、ホルヘ・サンタナ、アルセリオ・ガルシーア、リチャード・ビーンが一堂に介したオリジナル・マロのリユニオン。どのトラックも涙なみだの熱演だ。

Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄5～ LATIN ROCK ～ by Willie NAGASAKI on Aug. 24, 2008

11. Se A Cabo

横尾忠則氏がアートワークを手がけた日本製作による奇跡のライヴ・アルバム『ロータス』。チェピート作曲。チェピート・アレアス、マイケル・カラベーロが発明したのが、メレンゲとマンボを合体させたメレンボ。アンコール前で必ず演奏されたナンバー。チェピートの存在感をまざまざと見せつけたテイクだ。2007ギネスブック認定！

Encore:

Black Magic Woman ~ Gipsy Queen

BMW～ GQロータス幻のプロモーション・フィルムが30年あまりの月日を経て発掘。伝説のパフォーマンス。本邦初公開。

協力：ソニー・ミュージック

Copyright: マンボラマTokyo